



運転手不足によるバス減便の影響が、中部農林高校定時制に通う生徒の学びに影を落としている。部活を諦めたり、同級生らに車での送迎をお願いしたりとやりくりする生徒たち。「学校の時間に合わせて減便前の運行に戻してほしい」と願う。(社会部・徐潮) || 1面参照

## 中部農林定時制の生徒

# 学びの足、バスが頼み

読谷村楚辺に住む4年の女子生徒(19)は、琉球バス交通の知花線などを乗り継

ぎ約1時間かけて学校に通う。バスが減便された昨年10月、4校時が午後9時5分に終了しバス停に行くと、最終便が出た後だった。

母子家庭で、母親は夜遅くまでホテル清掃の仕事をしているため、送迎は難しく。女生徒は「他にも困る人がいるはずだ」と思い、学校に相談。担任が乗り換

行してほしい」と望む。

男子生徒(17)は朝に体調が崩れやすく、中学3年時に不登校になった。高校を選

ぶ時、中部農林高に好きな卓球部があると知り「迷いなくここに来た」という。校時の途中まで部活を楽し

校にも来やすくなつた」だが、減便後は5校時のバスの減便で通学の負担が増えることが「学校を続けられない」となる要因の一つに楽しいことがあれば勉強もやる気が出る。卓球をもう一度やりたい」

同校の喜友名朝睦教頭は「彼らの学習権を守つていきたい」と話した。

中部農林高校前を通る長田真志川線のバス。平日最終の到着時間は午後9時5分となっている

24日、うるま市・同校正門前

## 減る睡眠 部活も断念

女子生徒(19)は、琉球バス交通の知花線などを乗り継ぎ約1時間かけて学校に通う。バスが減便された昨年10月、4校時が午後9時5分に終了しバス停に行くと、最終便が出た後だった。母子家庭で、母親は夜遅くまでホテル清掃の仕事をしているため、送迎は難しく。女生徒は「他にも困る人がいるはずだ」と思い、学校に相談。担任が乗り換えの停留所まで送つてくれることになつた。

ただ、担任の仕事が終わるのは午後10時。女生徒の帰宅時間はバス減便前より1時間遅くなつた。平日は朝6時からアルバイトをしている。「睡眠時間が1時間減り、5時間しか寝られない毎日だつた」

今は車の運転免許を取得した同級生に遠回りして送つてもうつっている。女生徒は「バスがあるのが当たり前と思っていた。バス会社は学校の時間に合わせて運